

平成20年度 学習指導計画

科目名 古典 (2年) (2単位)

	校長	教頭	授業担当者
年度始 (5月)			
年度末 (3月)			

1、教科書・副教材

高校生の古典(明治書院):古典O38
カラー版国語便覧(第一学習社)

2、科目の目標

古文、漢文の基礎力を身につける。
古典の学習を通して、旧国名・故事成語・ことわざ等現代において使用される事項を習得する。
古典作品に触れることによって、日本文化の特質の一端を理解できるようにする。

3、年間授業計画

		指導内容	考查範囲	※ 時数(予定/実施)	※ 指導上の留意点・到達目標		
1 学 期	4月	笑話と説話 ・しろくは二 十四 5月 ・鼠ども談合 のこと 6月 故事 ・漱石枕流 ・矛盾 7月 ・糟糠之妻	古文の学習は、語句の意味調べ、現代語訳、解釈を中心に行う。1学期は、旧国名の学習も行う。	中間考查	12 /	学習者の理解と指導内容の定着を図る。 個々の学習者の基礎力と興味の持ち方を適切に判断する。	
	期末考查			12 /			
	漢文の学習は、漢文訓読の復習、書き下し文、解釈を中心に行い、白文の読みにも挑戦する。						
2 学 期	9月	大和物語 ・姨捨山の 月 10月 ・鹿の鳴く声 故事 ・青眼 ・杞憂 史話 ・太公望 方丈記	古文、漢文の学習ともに1学期の学習内容を継続し、基礎力の定着を図る。『大和物語』では和歌の技巧の基本について、『方丈記』では「無常」という概念にも触れる。漢文では、故事の学習の後、比較的なじみやすい歴史に関する文章を取り上げる。	中間考查	13 /	学習者の理解と指導内容の定着を図る。 やや高度な内容に触れても、学習者の興味をそらさないように留意する。	
	期末考查			13 /			
	1月		1、2学期の学習内容をさらに継続し、基礎力のさらなる向上を目指す。『徒然草』の学習では、筆者兼好法師の考え方に、史話の学習では、歴史上の人物の実像に	学年末考查	20 /		1年間の指導がどのように効果があったのか振り返り、指導法を改善する。
	2月						
3月							

4、評価の方法

定期考查の成績の他に、平常点として出席状況や授業態度を加味する。
さらに、ノート・プリントの提出点を加える。
自発的な発表(暗誦・作品解説・解釈・批評)など積極的に学習に参加する姿勢を評価する。
0

5、反省・総括・次年度への改善点

※